文部科学省委託事業
令和５年度　地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業
（ＣＯＲＥハイスクール・ネットワーク構想）

長崎県
成果発表会　発表資料

「思い」と「未来」をつなぐＤＸ
DX
Nagasaki
教育庁 教育ＤＸ推進室

長崎県教育庁教育DX推進室

取組の背景となる課題、取組の目的

長崎版ＣＯＲＥハイスクール・ネットワーク構想

目的

「自己肯定感を高め、社会の変化に主体的に関わるための資質・能力を育み、一人一人の可能性を伸ばす」ことを重点目標に掲げ、確かな学力の育成に取り組む。また、協働的な学びや深い学びを推進するため、遠隔授業を活用して地域や他校の生徒と協働し、課題解決能力を高める。加えて生徒の興味・関心や多様なニーズに応じた科目選択を可能にし、幅広い進路選択を実現する中で、将来様々な分野でふるさとやわが国に貢献できる人材の育成につなげていきたい。

現状

①長崎県内の中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校においては、地域唯一の高等学校として多様な進路希望に応じた教育支援を行うことが必要であるが、教職員定数が限定的であり、生徒のニーズに応じた多様な科目開設や習熟度別指導が困難である。

②教室内の人数が少なく、学びの深化を図るための多様な意見や考え方に触れる機会が少ない。

1．遠隔授業に関する取組の概要

・令和３年度から令和４年度にかけて（試行）

先進校から指定校３校への遠隔授業

●主に壱岐高校による日本史等の遠隔授業を実施する

指定校３校の遠隔授業（相互配信の試行）

●宇久高校、奈留高校、北松西高校が、歴史総合と地理総合の授業を相互配信する

・令和５年度以降

指定校３校による相互遠隔授業

●各指定校が「地理歴史」の科目をそれぞれ担当し、他の2校に配信する。

2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

指定校３校は地元関係機関とコンソーシアム（共同研究体）を形成する。コンソーシアムは、各高校が取り組む「探究活動」において多様な視点からのアドバイスを行い、その地域の課題解決について様々な形で関わることで、その地域を担う生徒に求められる資質能力の育成に寄与する。

各高校の課題研究の手法や内容を学校間で共有したり、それぞれの中間報告会や成果報告会等を、遠隔システムを用いて共有するなど、探究活動等における学校を超えた協働的な学びの可能性を探る。

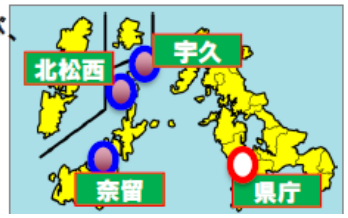
●コンソーシアム構成例：小・中学校、行政センター、町役場、観光協会、NPO法人など

3. ネットワークを構成する学校

長崎県本土の西方海上に浮かぶ五島列島および壱岐島にある高等学校を結び、長崎県版COREハイスクールネットワークである Remote Islands Learning Network(RIL Net)を構築する。

先進校　●長崎県立壱岐高等学校

指定校　●長崎県立宇久高等学校、長崎県立奈留高等学校、長崎県立北松西高等学校



具体的な取組の内容と検証

1.「教科・科目充実型」の遠隔授業など、ICTも活用した連携・協働の取組

（1）3年間の遠隔授業の配信・受信の概要

令和3年度：先進校から指定校3校への遠隔授業

・壱岐高校から日本史等の遠隔授業の配信

・遠隔授業の相互配信に向けたICT機器の整備

令和4年度：指定校3校による遠隔授業（相互配信の試行）

・宇久高校、奈留高校、北松西高校による、1年生の必履修科目「歴史総合」と「地理総合」の相互配信

・壱岐高校によるモデル授業の配信、相互配信に関する助言

令和5年度：指定校3校による相互遠隔授業（単位認定を伴う相互配信）

・単位認定を伴う毎時間の遠隔授業の相互配信

・定期考査の共通実施、評価に係る様式・手順の統一

・指定校間の連絡調整体制の整備、強化

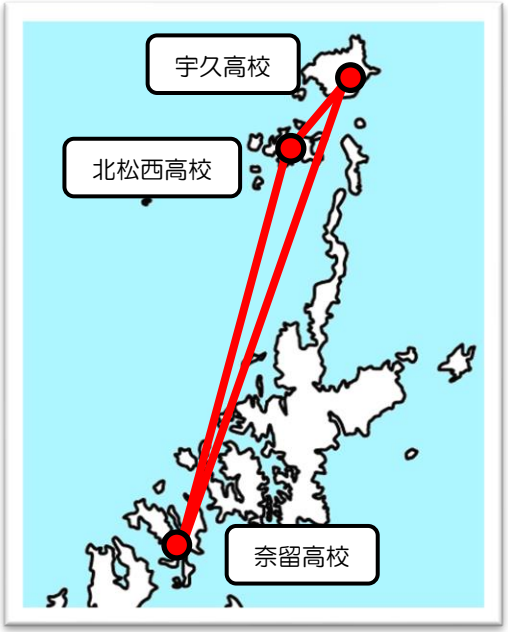
・受信校における支援員のマニュアルを作成して役割を明確化

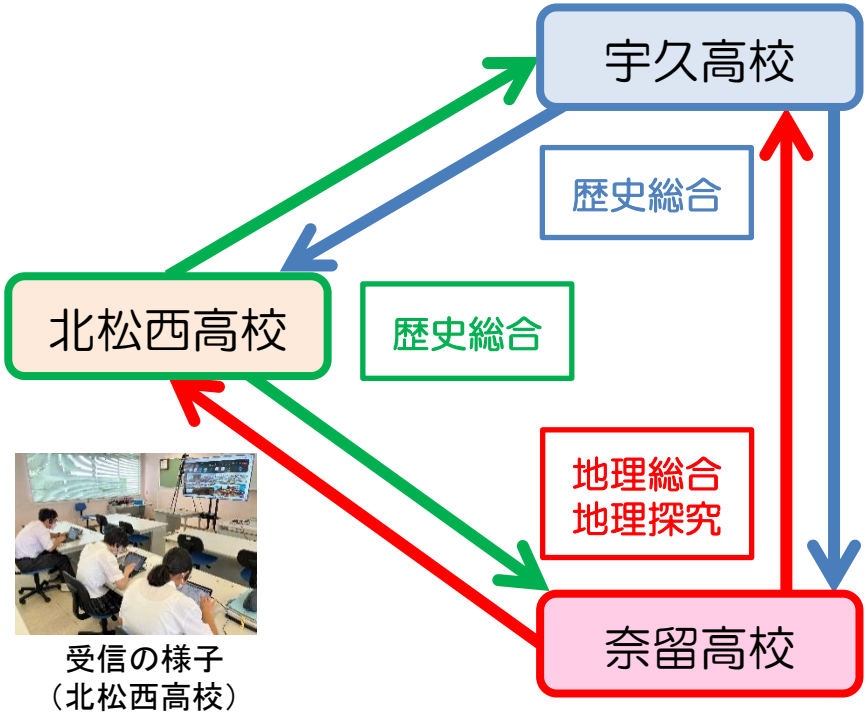
具体的な取組の内容と検証

1.「教科・科目充実型」の遠隔授業など、ICTも活用した連携・協働の取組

（2）遠隔授業における配信・受信の体制

- **相互配信型**・・・単位認定を伴う相互配信（令和5年度～）
- **ハイブリッド型**…生徒の反応や取組の状況を把握しながら授業を進行
- **EdTechサービス**（「MetaMoji ClassRoom」）**の統一運用**





受信の様子
（北松西高校）

受信の様子
（宇久高校）

受信の様子
（奈留高校）

具体的な取組の内容と検証

1.「教科・科目充実型」の遠隔授業など、ICTも活用した連携・協働の取組

（3）円滑な遠隔授業の配信・受信のための学校間運営体制

①オンライン担当者会による情報共有と連絡調整

- Microsoft Teamsによるチーム（地歴科担当者会、教務主任会、探究学習担当者会等）の整備と、定期的な合同担当者会の実施
- 教務主任会を中心として、「遠隔授業に関する業務一覧および分担」を整備

業務内容		教務主任	授業者	支援員	備考
年度当初	教育課程作成	○			※前年度
	時間割作成	○			
	使用教室・機器の整備	○	○	○	
	年間指導計画・評価計画作成		○		
	年間指導計画・評価計画の周知		○		
授業	時間割の調整	○	○		※各月
	配信計画の作成・共有		○	○	※各月
	時間割変更	△	○	○	
	授業プリント・課題の作成		○		
	授業プリント・課題の配付			○	
	出欠管理			○	
	授業中の観察		○	○	
	通信トラブル等の対応		○	○	
事後視聴	視聴時間の設定	△	○	○	
	生徒への指示		○	○	
	視聴機器の準備・視聴の実施			○	※一斉視聴の場合
考査	考査時間割作成	○			
	考査問題作成		○		
	考査問題及び答案の送受信		○	○	
	考査問題印刷			○	
	考査出題（質問受け）			○	
成績処理	評価シートの作成・周知	○			
	評価項目・基準の設定		○		
	評価の実施		○		※授業者基準
	評価の換算			○	※受信校基準
相互訪問	対面授業の計画		○		
	日程調整	○(訪問先)	○		
	課題作成（訪問先以外）		○		
	課題配付・監督（訪問先以外）			○	
科目選択	各科目の内容説明		○		
	科目選択についての説明（遠隔授業の諸注意含む）	○			

「CORE遠隔授業における業務一覧および分担」

具体的な取組の内容と検証

1.「教科・科目充実型」の遠隔授業など、ICTも活用した連携・協働の取組

（3）円滑な遠隔授業の配信・受信のための学校間運営体制

②定期考査を共通で実施

・教務主任を中心として、指定校における評価についての様式の統一や、評価に係る手順を整備

（3）具体的な作業内容　※手順①～⑩は（2）の手順と一致

手順	授業者	各校支援員
① ②	年間授業評価予定・実施表を作成 観点別評価の割合が決定（統一）	年間授業評価予定・実施表の受領
③	個人成績算出表を授業者が作成 （各校別ファイル。「評価の観点」・「比率」・「考査：考査以外の割合」は同一） 奈留　北松西　宇久	受信する授業の個人成績算出表の換算用ファイルを作成 ※配信を自校でする科目の場合は必要ない 地理総合（奈→北）　歴史総合（宇→北）　地理探究（奈→北）
④	設定した各評価の点数をその都度入力	（　必要に応じて評価のすり合わせ　）
⑤ ⑥ ⑦ ⑧	考査採点後、素点を入力 成績算出に必要な各評価と素点の入力が完了したら、各校支援員に送付する。（CORE用Newsメール）	宇久 送付された成績算出表から、換算用ファイルに点数を転記する。 自動で換算された点数を、校務事務支援システムに入力、成績単票を作成
⑩		転記ミスがないか、送付された成績算出表と換算表（換算前のシート）を確認 （地歴科教科一支援員間）
⑨		成績単票の提出（授業者名は支援員の氏名）

考査実施に当たっての詳細な手順書を作成

③遠隔授業の「支援員マニュアル」を作成

・文部科学省の『遠隔教育システム活用ガイドブック』等を参考に、「支援員マニュアル」を作成して役割を明確化

【長崎県】遠隔授業における受信側支援員の役割について

令和５年３月１７日時点（今後随時更新予定）

※本資料は次年度遠隔授業を円滑に進めていくため、室と指定校で作成したものですが、実際に動き出してから再調整や再考すべきことも多々生じてくると思われます。ご意見やご助言などあれば、遠慮なく共有いただきますようお願いいたします。

1. **授業の事前・事後打ち合わせ**
   - 授業内容及び配信者が特に受信側でサポートを要望することがあればその内容等
   - 教材の配付（配信者→受信側支援員）
   - 配信者と生徒の様子などをやり取り
2. **授業前の受信準備**
   - 使用教室を生徒へ連絡
   - 機器の配置・準備
   - 教材の配付（受信側支援員→生徒）（印刷の必要があれば印刷）
   - 出欠情報を配信者へ連絡　（newsメール、チャット等）、出欠の管理
3. **授業中の補助作業**
   - 機器トラブル対応
   - 生徒の操作補助（ツール類の操作方法は授業者が生徒へ説明するのでその補助）
   - 遠隔授業継続困難時の対処（自習など）
4. **評価等**

「支援員マニュアル」（一部）

具体的な取組の内容と検証

1.「教科・科目充実型」の遠隔授業など、ICTも活用した連携・協働の取組

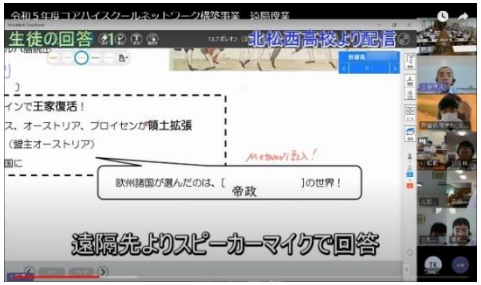
（4）成果と課題

①<u>同時双方向・ハイブリッド型の授業</u>

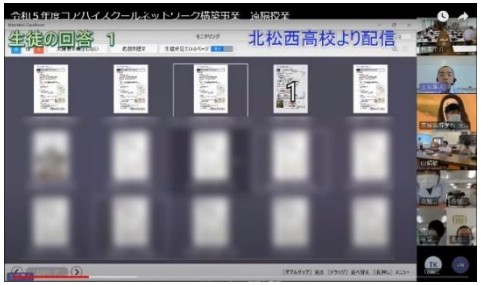
○目の前に自校生徒がいるため、常に反応や取組状況の確認が可能
○教員が相互に授業を見る機会の増加による指導力の向上
△対面の生徒と画面越しの生徒への同時対応による負担

②<u>EdTechサービス（「MetaMoji ClassRoom」）の統一運用</u>

○生徒の学習状況のリアルタイムでの把握と即座の指導
○学校を越えたリアルタイムでの成果物等の共有
△有料サービスの費用負担



MetaMoji Classroomによる学習状況の把握



画面共有を使った学習内容の共有とやり取り

具体的な取組の内容と検証

1.「教科・科目充実型」の遠隔授業など、ICTも活用した連携・協働の取組

（4）成果と課題

③単位認定を伴う毎時間の遠隔授業の相互配信

○授業者と生徒の信頼関係の醸成
○学校を越えた、生徒同士の人間関係の広がり
△授業者の授業準備等の負担の増加
△離島の不安定な通信環境への対応

④指定校間での教育課程の調整による、地歴科の授業における最大限の科目数の開講

○教員が専門科目の指導に専念できる環境の創出
○生徒の学びの選択肢の増加
△生徒の科目選択により配信教員の授業が他校への配信のみとなる場合の対応

具体的な取組の内容と検証

1.「教科・科目充実型」の遠隔授業など、ICTも活用した連携・協働の取組

（4）成果と課題

⑤定期的なオンラインでの担当者会による情報共有と連絡調整

○指定校間の行事等にも最大限対応した遠隔授業の時数確保

△各学校が配信と受信を担うことによる業務負担の軽減

⑥「支援員マニュアル」による支援員の役割の明確化と精選

○特に授業中における授業者の負担軽減

△授業の特性に応じた支援員の支援内容や見取りのありかた

△同時に複数実施される遠隔授業や、課外授業を想定した対応策

授業における支援員による
機器操作のサポート

※「支援員マニュアル」については長崎県CORE事業ウェブページで公開予定
https://core-hs.news.ed.jp

具体的な取組内容と検証

2. 市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムの構築と、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

（1）3年間の取組の概要

令和3年度：コンソーシアムの構築、地域等と連携した活動の充実

・各学校におけるコンソーシアムの構築
・合同行事などの連携の充実や、外部人材による遠隔授業の実施
・3校の協働的な学びの可能性の検証

令和4年度：探究活動等の充実

・外部人材の効果的な活用
・指定校における研究成果・方法の共有や合同発表会等の実施
・地域と連携した教科横断的な学びと探究活動についての研究

令和5年度：探究活動等の深化

・コンソーシアムや他校、外部人材との関わり等を通じた、各校の探究活動の更なる充実と共同研究等の可能性の検証

具体的な取組内容と検証

（2）島全体からの学びの創出

①『Uku Labo地域塾』（宇久高校）

・地元の歴史や文化、行政、福祉、観光、漁業・畜産業等をテーマに、地元の方を講師に招いての体験型の探究学習を通年で実施

・探究的な学びにおける研究の視点や手法等について、大学や高校の先生を講師に招いて学習

宇久町観光協会を訪問し、地元の人もまきこんで島の魅力を発信するための観光プランについて、協会の方の助言を受けながら作成

地元の専門家の指導、助言を受けて作った、地元の魚を使った食品を、地区行政センターで行われる「ふれあい産業まつり」で販売

GPS情報を使った移動履歴地図描画システムを製作して島の地図を作成し、第11回気象観測機器コンテストで発表

3学期には島の小・中学校の生徒や地域の方を学校に招いて、生徒発表会を実施して成果を共有

具体的な取組内容と検証

（2）島全体からの学びの創出

②『小値賀学（地域探究）』（北松西高校）

・高校3年間をとおして「生徒が自ら課題を見つけて、その解決策を見いだしていく」学びを進め、成果を地域に還元・共有

・地域探究活動アドバイザー（元大学特任教授）による、生徒の活動や教員の生徒への関わり方などに関しての指導・助言

小値賀町議会で「地域探究発表会」を実施し、3年生がこれまでの地域探究活動を提案型プレゼンテーションで発表

地元のNPO法人の協力のもと、自作のガイドブックを作成してツアーガイドを行い、高校生自身が観光資源となるかたちで地元の魅力をPR

地元企業の協力のもと、未利用魚を使ったせんべいを作って、ゴールデンウィーク期間に島内のショップや旅館等で販売

活動の成果をまとめたプレゼンテーションを「地域活性化策コンテスト『田舎力甲子園』」ファイナリストとして発表し、優秀賞を受賞

具体的な取組内容と検証

（2）島全体からの学びの創出

②『奈留実践』『小中高合同三大行事』（奈留高校）

・小中高の児童生徒の企画・運営・協力体制の構築にもとづく、小中高合同行事の実施

・大学の先生を講師に招いての、地元のトランセクトウォーク（コミュニティの調査活動）の実施

五島市奈留支所職員の方による、地元の現状や課題、地域振興に向けた様々な取り組みについての講話

三大合同行事「歓迎遠足」「かるた・百人一首大会」「体育大会」を終えての、小中高合同打ち合わせ会

大学教授の指導のもと、地元のまち歩きを行い、調査活動の成果としてフォトマップを作成し、プレゼンテーションを実施

北松西高校の探究学習の成果発表の様子を視聴し、評価を実施（指定校間で相互に実施）

具体的な取組内容と検証

２．市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムの構築と、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

（３）成果と課題

○世代を超えた地域住民との交流による、視野や考え方の広がりや協調性・協働性の育成

○地域住民が学校の実態を知る機会の創出と重要性の再認識

○地域の活性化につながる新たな学びの場の創出

○地域との連携やふれ合いをとおした郷土愛の育成

○探究的な学びをとおした地域の魅力や課題の再発見

△離島の学校間における、学校を越えた活動の実現のための工夫

△ノウハウの継承や継続可能な取組にするための運営体制の確立

遠隔授業における「長崎モデル」（小規模校によるネットワークモデル）の構築

（1）相互配信型の長所や魅力をふまえた遠隔授業の実現

・地理的制約を超えた、多様かつ質の高い学びの実現

・相互配信型の遠隔授業における学び合いの推進

（2）小規模高校単独では実現の難しい特色・魅力ある教育活動の展開

・教育課程の共通化・相互互換性の向上による多様な選択科目の実現

・学校間連携の進展によるそれぞれの学校の更なる魅力化

（3）一島一校ならではのコンソーシアムの構築

・長崎ならではの地理的特性を活かした、地域との連携体制の構築

今後の展望（遠隔授業を中心とした新たな学びの展開）

DXで広がる学びの可能性 ― 新時代の学びのキー・ステーション

【遠隔教育センターが提供するもの】
従来、学校だけで提供できなかった新たな学び
ICTによる時間と空間を超えた豊かな学び
生徒が選び、自ら学ぶための多様なチャンネル

長崎県遠隔教育センター（仮）

対象となる学校等
離島・半島部の小規模県立高校
その他の県立高校
特別支援学校、市町立小学校・中学校
公立学校の教職員

遠隔授業等の配信

- 小規模高校等への遠隔授業配信
- 大学入試等への対応
- 公務員指導
- 就職指導
- 資格取得

多様な学びのコンテンツ開発

- 探究活動（大学・企業との協働）
- 国際交流（海外の学校や留学生との交流等）
- キャリア教育（商品開発、企業体験等）
- 教員研修（リアルタイム／オンデマンド）

主なスケジュール

	R5	R6	R7
	機器の整備	施設の整備	開設
遠隔授業等	大学入試や習熟度に対応した配信		
	公務員、資格取得等に対応した配信		
			授業配信単位認定
多様な学び	探究的な学びのコンテンツ開発		探究コンテンツ配信
	キャリア教育・国際交流に係る配信		
	教員研修の配信		

文部科学省委託事業
令和5年度　地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業
（COREハイスクール・ネットワーク構想）

【長崎県】遠隔授業における受信側支援員の役割について

令和５年３月１７日初版
令和６年１月１８日改訂

受信校側には、教員免許を有した授業補助者（支援員）を配置する必要がある（※令和５年度末時点。今後規則の改正等で変更の可能性あり）。遠隔授業における授業補助者の役割については以下のとおりとする。

１．授業の事前・事後の打合せ	・配信計画の日時等の確認 ・時間割変更等の有無の確認 ・授業プリント・課題の確認、受け取り ・授業内容及び授業者が特にサポートを要望することがあればその内容等 ・授業開始または継続が困難な場合の指示内容の確認 ・（必要に応じて）生徒に関する授業者との情報交換 ・受信機器の開始前の準備、操作（一斉視聴の場合）
２．授業前の受信準備	・使用教室を生徒に連絡 ・機器の配置・準備 ・授業プリント・課題の配付（必要に応じて印刷） ・出欠情報の連絡、管理※１
３．授業中の補助作業	・機器トラブル、通信トラブルの対応 ・生徒の操作補助（ツール類の操作方法は授業者が生徒へ説明するのでその補助） ・授業開始または継続が困難な場合の指示等の対応※２ ・授業中の生徒観察 ・授業の録画（授業者が録画操作を実行していない場合）
４．考査、成績処理	・考査問題及び答案の送受信※３ ・考査問題の印刷 ・考査実施中及び終了後の質問受付※４ ・答案の返却、成績単票の作成・提出 ・考査に関する情報（授業の実施時数等）の管理 ・評価の換算（受信校基準）
５．その他	・授業動画の事後視聴の時間調整（授業者または教科主任等と） ・配信者を自校に迎えての対面指導における課題配付・監督 ・使用教室・機器の定期的な整備

【注】

※１　生徒の出欠の連絡については、個人情報を含む場合があることをふまえ、他の者が知りえない方法で行う。配信授業内のチャットは授業者及び支援員以外にも見える形で記録が残るため、使用しないこととする。

※２　支援員が即時対応できないトラブルが発生した場合は、チャット等で授業者と連絡を取り合い、自習等の指示について確認し、指示を行う。連絡を取ることが難しい場合は、事前の申し合わせにもとづいて支援員の判断で指示を行う。

※３　考査問題及び答案の送受信については【別紙】考査実施マニュアルをもとに実施する。

※４　考査に関する質問については、基本的に受け付けるのみとしてその場で回答はせず、随時授業者に連絡する。

遠隔授業で使用する主な機器・アプリケーション

機器

１人１台端末（Windows10）（内蔵カメラ、マイク、スタイラスペン、マウス）
ビデオカメラ（USB カメラ）
スピーカーマイク（拡張スピーカーマイク）
イヤホン（ヘッドセット）
外部ディスプレイ
モバイルルーター（教室外用または教室内補助用）
その他接続用アダプタ、コード等

機器については、受信校により機種や台数、受信時に使用する機器が異なる。
参考）遠隔教育システム活用ガイドブック
長崎県コアハイスクールネットワーク構想サイト・遠隔授業準備マニュアル
遠隔授業実施マニュアル（長崎県教育庁高校教育課 ICT 教育推進室）

受信側支援員としては、特に授業進行に関わる事項、たとえば
・お互いの映像・音声が届いているか
・生徒のマイクの消し忘れでハウリングが起きていないか
・授業の録画を授業者が実行しているか
等に気をつける必要がある。

アプリケーション

Microsoft Teams
Microsoft PowerPoint
MetaMoJi ClassRoom
Web ブラウザ（Microsoft Edge、Google Chrome 等）
Microsoft Excel、Word 等
動画再生ソフト

受信側生徒は主に Teams、MetaMoJi ClassRoom の操作となる。
これらのアプリケーションおよび Windows の操作に慣れて、授業中に操作に詰まっている生徒の補助を行うことができるようにする。

・Teams「N-StuDX［えぬすた］」チームの「11_１人１台パソコン研修動画」等の活用
Windows10アプリの活用、Office系アプリの共同編集、Teamsの活用（授業編）
などの説明動画

遠隔授業中に実際に起きたトラブル

以下は、過去に長崎県で実施された遠隔授業中に実際に起きたトラブルです。

	トラブル	対応例
1	配信側でマイクをオフにしたまま数分間授業が進んだ。	受信側の生徒がジェスチャーで、および受信側支援員がチャットで連絡した。
2	受信側でスピーカーをオフにしたまま数分間授業が進んだ。	受信側支援員がTeams会議で使用するスピーカーの設定ミスに対応した。
3	資料共有時、受信側に表示されないまま配信側が解説を始めた。	受信側支援員がチャットおよび音声で連絡した。
4	ブレークアウトルームに分かれての議論でファシリテーター役がはっきりせず議論が進まなかった。	次回はファシリテーター役を明確にすることとした。
5	生徒に発言させた後、配信側が話し始めるとハウリングが発生した。	受信側で共用マイクをオフにした。通常受信側はマイクオフの状態で配信を受ける（又は生徒がそれぞれヘッドセットを利用する）。
6	複数の外部ディスプレイを使用している時、マウスの場所がわからなくなり共有資料のページ切り替えに手間取った。	タッチペンを用いた。Windowsショートカットも利用できる。また、設定でCTRLキーによりマウス位置を強調表示することができる。
7	資料共有時（PowerPoint、MetaMoJi、ブラウザ、動画等）切り替え操作に時間が掛かる。	操作の習熟や、１コマ内での使用アプリケーションを限定するなど、授業者間で情報交換を行った。
8	遠隔授業中ではないが、マイクロソフトで大きな障害が発生し、Teams会議やOutlookメールなどが正常に使用できない・ログインできない状態が半日程度続いた。	重要な会議が予定されている場合には、Teams会議だけでなく、他のWeb会議システムでの開催も予備として準備しておく。
9	校外配信中、前もって準備していた動画を共有しようとしたが動画を開始することができなかった。	数分間のラグの後、他の教員が同じ動画をもっていてそちらから共有することができた。トラブル原因は不明。校内では動画再生・共有OK。
10	屋外配信中に風が強くて音声が乱れた（PCのカメラ・マイクを使用しての中継）。	車の影に隠れて配信した。次回からはヘッドセットと外部カメラも検討するとした。
11	配信側の通信状況が悪く、映像、音声ともに受信側に届かない状況が続いた。	受信側が授業者と連絡を取り、自習の指示を行った。後日、通信状況の比較的良い時間帯に時間割を変更した。

参考資料

文部科学省　遠隔教育システム活用ガイドブック 第３版より引用

教科・科目充実型の遠隔授業を行う際の主な留意事項について

生徒数

同時に授業を受ける生徒数は、原則として40人以下とすること。

配信側

受信側の高等学校等(生徒の在籍する高等学校等)の身分を有すること。

学校種や教科等に応じた相当の免許状を有すること。

受信側

原則として教員を配置するべきであること。

※病室等において病気療養中の生徒等に対して遠隔授業を行う場合には、教員配置は必ずしも要しない(その場合には、病室等での通切な体制整備が必要)

学習評価

単位認定等の評価は、配信側の教員が行うべきであること。(受信側教員はそれに協力)

その他

遠隔授業を行う教科・科目等の特質に応じ、対面により行う授業を相当の時間数行うこと。

36単位を上限とすること。

※病室等において病気療養中の生徒等に対して遠隔授業を行う場合には、単位数上限の算定には含めない。

参考資料

文部科学省　遠隔教育システム活用ガイドブック 第３版より引用

授業補助者の役割

受信校側には、教員免許を有した授業補助者を配置する必要があります。遠隔にいる授業者がスムーズに指導できるためには、授業補助者の役割が非常に重要です。授業補助者の役割について以下に示します。

事前事後の打合せ

授業の前後に打合せを行う。授業内容の確認、当日使用するワークシートを中心とする使用教材の確認、評価規準とその判断基準の確認を行う。授業後は、次回の授業内容の確認、準備物の確認を行うとともに、学校行事などにともなう時程調整なども行う。

機器操作

機器の立ち上げや、トラブル時の対応などを行う。

印刷物の配布

生徒に印刷物を配布する必要のある場合は、その印刷配布を行う。

生徒の観察

授業者から生徒の状況を確認することには限界があるため、補助者が生徒の意欲や態度などを観察し、学習評価シートに記録して授業者と共有する。

進捗状況の伝達

教員用タブレット端末を使用して、生徒の状況を撮影しながら机間指導を行う。

授業の記録

授業記録の作成を行う。

教科指導の補助

生徒の状況を確認しつつ、授業者の指示を繰り返したり助言したりする。目の前に授業者がいない状況では対面授業に比べ、授業への集中が欠けてしまいがちなので、積極的に生徒に声掛けを行う。

タブレット操作の補助

生徒のタブレット端末の操作補助を行う。

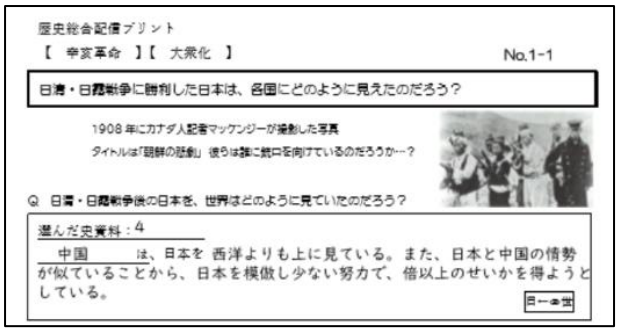
文部科学省委託事業
令和5年度　地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業
（COREハイスクール・ネットワーク構想）

【長崎県】遠隔授業における評価についての実践事例

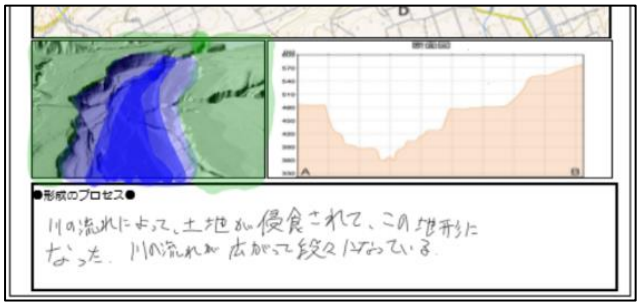
1　評価の方法

（1）授業中に実施する思考・判断・表現活動における観察・評価

評価対象　：　個人
評価者　：　授業者・支援員
評価観点　：　知識・理解　/　思考・判断・表現　/　学びに向かう力
使用ツール　：　カメラ・MetaMoji・ClassNotebook・Teams（Word・PowerPoint）など
概要　：　記述などの思考・判断・表現の活動を、
①紙面上で実施→カメラで撮影・Teams や MetaMoji にアップロード
②クラウド上で実施、授業中およびその後に評価
評価方法　：　提出状況および記述内容の評価
事例　：　①遠隔授業における授業中の表現活動
②地理総合におけるグループワーク



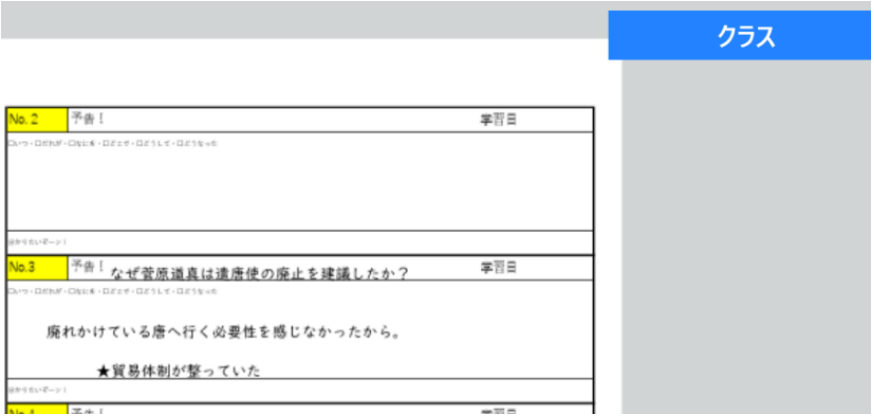
MetaMoji 個別学習ページ（歴史総合）



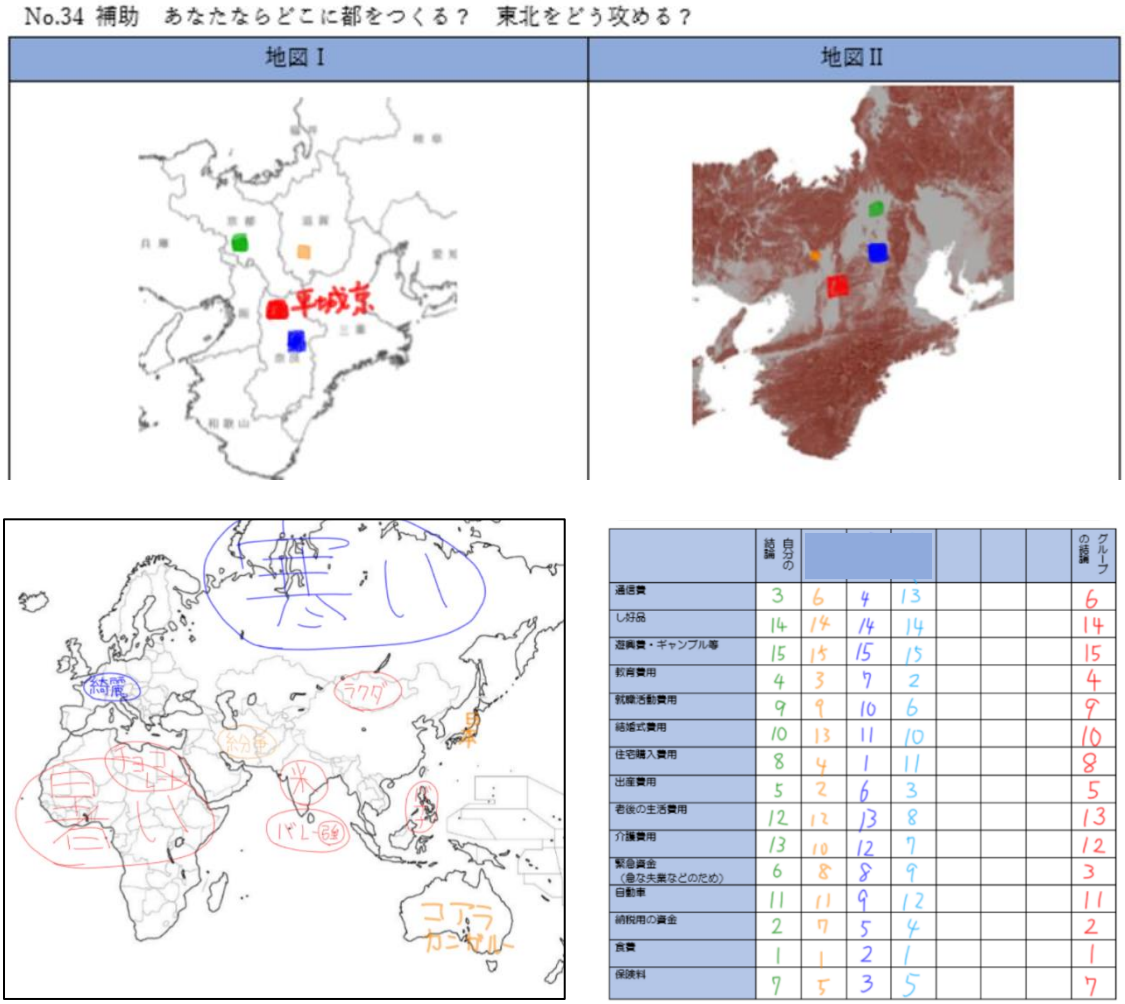
MetaMoji 個別学習ページにグループワークの成果を記載（個人の見取り）

（2）デジタルノートなどにおける作業量やその内容の評価

評価対象　：　グループ・個人
評価者　：　授業者
評価観点　：　思考・判断・表現　/　学びに向かう力
使用ツール　：　MetaMoji・ClassNotebook・Teams（Word・PowerPoint）など
概要　：　記述などの思考・判断・表現の活動をクラウド上で実施。授業中およびその後に評価。
記述者が区別できるツールや方法を用いると、グループ活動内での個人の評価も可能。
評価方法　：　参加・提出状況・グループへの貢献度などを評価。
事例　：　地歴、公民におけるポートフォリオによる協働記述、協働活動



ポートフォリオの協働記述（MetaMoji　クラス学習ページ）



類例：色分けによる個人の活動の見取り（地歴、公民）

（3）共同作業や全体での発表活動におけるパフォーマンス評価（実施コスト大）

評価対象　：　個人
評価者　：　授業者
評価観点　：　思考・判断・表現　／　学びに向かう力
使用ツール　：　MetaMoji・ClassNotebook・Teams（Word・PowerPoint）など
概要　：　ブレイクアウトルームを用いた討議における姿勢や作業状況を観察・評価する。
評価方法　：　参加状況・グループへの貢献度（姿勢・積極性）などを評価。
備考　：　リアルタイムでの観察で評価の公平性を考えると、班編成に応じた人数配置が必要
ビデオ録画での授業後の観察になると、＋αの作業や時間が必要になる。
事例　：　歴史総合における対話活動
英語科における発表活動

CORE ハイスクール事業　討論のてびき　～いろんな見方・考え方を発見しよう！～

学年	組	番号	氏名	しめい	所属校	班	役割	Teams会議参加	MetaMoji投稿
1	1	1				A	司会	●	
1	1	2				A	書記	○	△
1	1	3				A		○	
1	1	1				A		●	
1	1	2				A	書記	○	△
1	1	1				A		●	
1	1	3				A	書記	○	△
1	1	3				B	司会	●	
1	1	4				B	書記	○	△
1	1	4				B		●	
1	1	5				B	書記	○	△
1	1	5				C		●	
1	1	6				C	書記	○	△
1	1	6				C		●	
1	1	7				C	書記	○	△
1	1	7				D		●	
1	1	8				D	書記	○	△
1	1	8				D		○	
1	1	9				D	司会	●	
1	1	11				D	書記	○	△

≪はじめに≫　Teamsで議論をしよう！
・A～Dの班に分かれて話し合いをします。
・参加の仕方
（1）ブレークアウトルームに入室するのを待つ
（2）会議に参加する準備
ヘッドセットを着用
●の生徒：「ビデオの着信をオフ」を解除
各校の班員が映像を見えるようにする
スピーカーON・マイクON（発言しないときはOFFでもよい）
○の生徒：「ビデオの着信をオフ」を継続
スピーカーON・マイクOFF
発言時は●のタブレットを見ながら、マイクONにして発言
（3）役割について
司　会：班の議論の進行役
書　記：配布しているプリントに記入する
（議論中はMetaMojiは起動しない）
その他：議論に積極的に参加し、プリントに記入していく。
（4）討論後は…
自動で全体の会議に復帰します（●の生徒は「ビデオの着信をオフ」）

約束事①　～討論するとき～
・限られた時間を有効に使おう
・発表内容をまとめる時間も忘れずに！
・役割を確認！もちろん全員で協力して取り組もう！
・発表時は相手に聞こえる声の大きさで
・カメラに向かって話そう！
※●のタブレットを活用
・相手が話しているときは対面で話しているイメージで
※●のタブレットに注目（画面の向こうにも伝わる聞き方で）
・発言内容のメモをプリントに取ろう！

約束事②　～討論が終わったら～
・討論終了後は自動で授業に戻ります。静かに待ちましょう。
・討論で完成させた手書きプリントを写真に撮り、MetaMojiへアップロード・共有しよう
※各班の△（書記）の代表者がアップロード担当です。話し合って代表者を決定すること。
・時間に余裕があれば…
討論メモをMetaMojiへ書き込もう

こんなトラブルが起きたら…　（：挙手をして、支援員の先生に手助けをお願いする。）
・ブレークアウトルームに参加できない　→　→　他の班員の生徒と一緒に討論に参加しよう
・ハウリングが起きた　→　まずはマイク・スピーカーをOFFに。　→
・間違ってTeams会議から退出してしまった　→　→　支援員の先生が授業者に連絡
・相手の声が聞こえない　→　[・・・]から[デバイスの設定]へ
/自分の声が届いていない　マイク、スピーカーは[ヘッドセット]になっている？
・その他のトラブル　→　→　復帰が難しいときは班員と一緒に参加しよう

ブレイクアウトルームにおける活動用の資料

（4）授業中および課題によるポートフォリオ評価

評価対象　：　個人・グループ
評価者　：　授業者
評価観点　：　思考・判断・表現　／　学びに向かう力
使用ツール　：　MetaMoji・ClassNotebook・Teams（Word・PowerPoint）など
概要　：　授業後の振り返りや授業中に扱った内容をテーマとした課題などの作成物を評価対象とする。
評価方法　：　提出状況および自己評価・相互評価で算出した得点に傾斜をかけて評価する。
事例　：　地歴総合におけるポートフォリオ
地理総合における写真コンテスト（Word で提出・Forms で投票）
現代社会における SDGs ポスター　／　ニュースの捉え方
（Teams の指定フォルダに元データを配置→各自 DL・編集→Teams に提出）

地理総合写真コンテスト
（Word で提出・Forms で投票）

現代社会：SDGs ポスター/ニュースの捉え方

（5）Forms によるアンケート・小テストの実施

評価対象　：　個人
評価者　：　授業者
評価観点　：　知識・理解　/　思考・判断・表現　/　学びに向かう力
使用ツール　：　Forms など
概要　：　授業で実施した内容を題材とした表現活動・小テストを実施
評価方法　：　参加する姿勢・小テストでの得点を評価とする。 小テストは事前設定で自動採点可能
事例　：　歴史総合における小テスト、アンケート（Forms で実施）

歴史総合における Forms のインサイト
（詳細な情報は Excel 形式で取得可能）

※各事例における「活動のタイミング」「日常的な評価」「実施に伴うコスト」について

活動のタイミング：　授業内（（1）・（2）・（3）・（4））　授業後（（2）・（4）・（5））
日常的な評価　：（1）＞（2）＞（3）＞（4）＞（5）
実施に伴うコスト：（3）＞（5）＞（4）＞（2）＞（1）

2 観点別評価について

(1)出欠の情報

配信者 ：Teams を使用する場合は、会議参加をもって出席とみなす（出席者レポートの送受信）

受信校 ：支援員を通じて情報を授業者へ逐次連絡し、各校の出席簿へ記入

課題　 ：コスト大（手間がかかる）、情報セキュリティの面で連絡方法等における慎重な運用が必要

(2)相互評価シート（1-(4)に該当）

評価者 ：授業者

課題　 ：コスト削減と公平性の確保を中心に検証中

手順① 年度当初に提出した「年間授業評価予定・実施表」をベースに、「相互評価シート」を作成

令和４年度　　年間授業評価予定・実施表

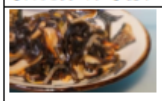
学年	組	科	教科名	科目名（選択）	単位数	担当者	教科主任
1	1	普通	地理歴史科	歴史総合	2		

教科書名（発行所）	現代の歴史総合　みる・読みとく・考える（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	明解歴史総合図説　シンフォニア（帝国書院）

1学期末考査まで				る。	た情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。	
	18世紀東アジアにおける社会・経済と近世日本の対外関係	3		・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。 ・資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。	・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を追求しようとしている。

【章】	第１章　結びつく世界と日本の開国
【単元】	1　18世紀の東アジアにおける社会と経済 / 2　貿易が結んだ世界と日本

【単元を貫く問い】昆布は沖縄では獲れないのに、どうしてクーブイリチーは沖縄の郷土料理なの？



"クーブイリチー"は細く刻んだ昆布と、短冊状に細切りした豚バラ肉を油で炒めた沖縄の伝統料理。
日本の昆布の９割以上は、北海道を産地としている。
郷土の産物じゃないのに、どうして郷土料理になったのか？
貿易の仕組みを学びつつ、メリット・デメリットも考えよう！

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

A：12～16P　B：6～11P　C：1～5P

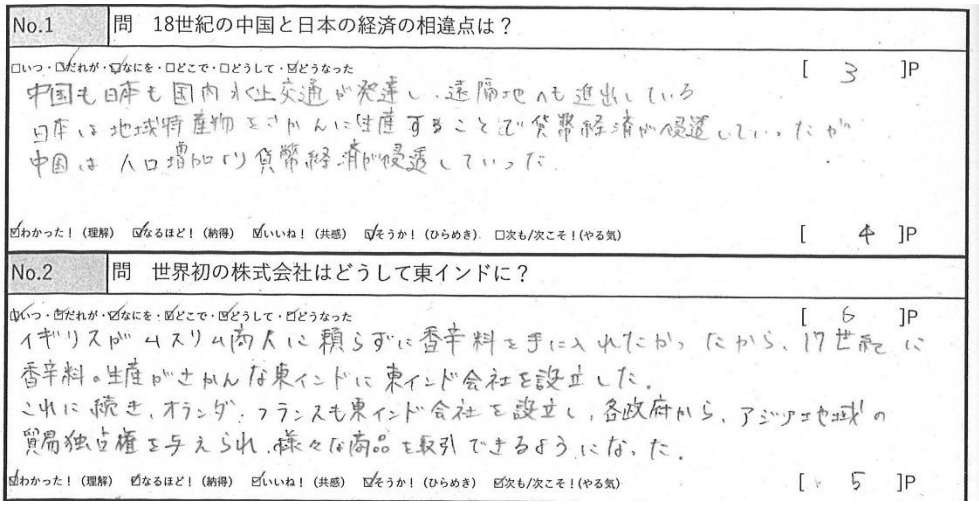
小単元	単元名	評価	理解度
1	18世紀の中国経済	A・B・C	[　]P
1	18世紀の日本経済とその変容	A・B・C	[　]P
2	アジア域内貿易とヨーロッパ	A・B・C	[　]P
3	18世紀のアジア貿易と日本	A・B・C	[　]P
		A・B・C	[　]P
		A・B・C	[　]P
★	総合	A・B・C	[　]P

単元目標	知	思	学	A	B	C
・18世紀のアジアや日本における生産と流通などから、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。 ・資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	○			・18世紀のアジア各地における生産と流通などから、18世紀のアジアの経済と社会を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	・18世紀のアジア各地における生産と流通などから、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。 ・資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	・18世紀のアジアや日本における生産と流通などから、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。
・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目し、主題を設定し、地域・諸国間の経済活動の特徴、関係を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について考察	○			・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目し、主題を設定し、地域・諸国間の経済活動の特徴、関係を多面的・多角的に考察し、表現している。	・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目し、主題を設定し、地域・諸国間の経済活動の特徴、関係を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について考	・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目し、主題を設定し、地域・諸国間の経済活動の特徴、関係を多面的・多角的に考察し、表現している。

No.1	問　18世紀
No.2	問　世界初
No.3	問　どうし
No.4	問
＜結論＞	テーマ：昆

「相互評価シート」に評価基準を観点別に転記

手順②　各生徒による授業後の記述(時間が不足する場合は授業後やテスト前の学習で充足)



No.1　問　18世紀の中国と日本の経済の相違点は？

□いつ・□だれが・☑なにを・□どこで・□どうして・☑どうなった　[3]P

中国も日本も国内水上交通が発達し、遠隔地へも進出している
日本は地球特産物をさかんに生産することで貨幣経済が浸透していったが
中国は人口増加で貨幣経済が浸透していった。

☑わかった！(理解)　☑なるほど！(納得)　☑いいね！(共感)　☑そうか！(ひらめき)　□次も/次こそ！(やる気)　[4]P

No.2　問　世界初の株式会社はどうして東インドに？

☑いつ・□だれが・☑なにを・☑どこで・☑どうして・□どうなった　[6]P

イギリスがムスリム商人に頼らずに香辛料を手に入れたかったから、17世紀に
香辛料の生産がさかんな東インドに東インド会社を設立した。
これに続き、オランダ、フランスも東インド会社を設立し、各政府から、アジア地域の
貿易独占権を与えられ、様々な商品を取引できるようになった。

☑わかった！(理解)　☑なるほど！(納得)　☑いいね！(共感)　☑そうか！(ひらめき)　☑次も/次こそ！(やる気)　[5]P

手順③　生徒の記述に基づいて評価を調整

				①	②	③	④		
出席番号	氏名	単元シートNo.	小単元No.	５Ｗ１Ｈ	相互評価	理解度	総合評価	③＋④	
0		1	1	3	2	3	8	11	
		1	2	4	3	4	11	15	
		1	3	6	2	3	11	14	
		1	結論	4	3	3	10	13	
		2	1	3	5	4	12	16	
		2	2	6	3	4	13	17	
		2	3	6	1	3	10	13	
		2	4	5	3	4	12	16	
		2	結論	5	1	4	10	14	
		１学期末集計	総合	42	23	32	97	129	
			評価件数	9	9	9	9		
			評価	78%	51%	71%	72%	72%	180
		得点換算		16	20	29			
				知識	思考	主体性			
		満点		20	40	40			

(3)授業中における見取り(1-(1)に該当)

評価者　:授業者

課題　　:画面を通しての見取りが難しいことをふまえ、MetaMoji の活用を検証中
　　受信校の支援員の関わり方

(4)課題の提出・ノートチェック(1-(4)に該当)

評価者　:授業者

課題　　:Teams や MetaMoji を利用した提出を推進